



# 生命にかかわる「誤嚥性肺炎」を予防 食べられる喜びを一人でも多くの人に 訪問歯科センター NEWS LETTER

令和3年 冬号  
川西市歯科医師会立訪問歯科センター  
住所: 川西市火打 1-12-16  
TEL: 072-757-0418  
FAX: 072-764-6480  
協力(一社)TOUCH  
<http://www.touch-sss.net/>

## ●●口から食べることの支援は難しい 口から食べることは恐ろしい●●



経口摂取を支援する目的は、低栄養からサルコペニアを経て、フレイルティサイクルの成立を防止することですが、支援の目的として経口摂取はQOLの維持のために必要と考えます。

ところが、QOLの維持を目標として機能評価を行わずに非経口摂取状態から即座に常食の摂取を開始できるかは、簡単ではないのです。

左図は、ある急性期病院でNGチューブ抜去のクリティカルパスを実行し、窒息死亡事故の原因となった口腔

内から取り出されたパンの塊です。この事故は、要介護度2、脳血管障害による機能障害と認知症を有していた高齢女性の入院急性期病院にて、クリティカルパスに従って朝食にパンが提供されたときに発生しています。この背景には、パンの摂取には、1)舌の運動 2)下顎の運動 3)唾液の分泌という3つの要件が満たされてなかったこと、また、朝食で覚醒レベルの低下した傾眠傾向状態での食事提供であったこと、また、NGチューブ留置中で軟口蓋から咽頭の感覚域値が上昇した嘔吐反射が生じない状態であったこと、また、ベッド上での食事のため円背になり十分に吸気できず、喀出が困難で、咽頭運動も抑制されていたこと、以上のようなことが背景として考えられます。

このように、無定見に経口摂取することは、窒息や肺炎のリスクを高くします。高齢者要介護者(児)の経口摂取支援のためには、特別な取り組みが必要になります。

## ●●豆知識NOTE●●

### 『原始反射と要介護者(児)』

原始反射が、要介護者や頭部外傷患者(児)に当てはまるのか考えてみましょう。外傷性頭部障害や遷延性意識障害になった人や高度納委縮が生じている末期アルツハイマー型認知症の人の中には、歯ブラシやスプーンを口腔内で咬んだり、舌で押し返してきたり、チュパチュパとなめたり吸ったりする人がいます。これは、原始反射が顕性化したと考えられます。原始反射は消失するものではなく、生後に多様な刺激を受けることにより、高位中枢でコントロールさせるもので、よって高位中枢に問題が生じた場合には、原始反射は顕性化するため、年齢とは無関係に食事支援や口腔ケアを行うために、頬のマッサージやストレッチなどの脱感作が必要になる。

## ●●スタッフ紹介●●

川西市歯科医師会立訪問歯科センター  
センター長 今西 要



今西センター長と歯科衛生士

訪問歯科センター長で、川西市歯科医師会副会長の今西 要でございます。私の姿は、市役所や地区の行政センターにおいて、証明書を入れる封筒の下面に印刷されており、訪問歯科センターPR 封筒で、お目にかかっているかもしれません。在宅や施設で歯科受診が困難な方を中心に活動しており、多くの方に利用して頂いております。オーラルフレイルが提唱されている現在、誤嚥性肺炎防止をスローガンにこれからも、進めて参ります。